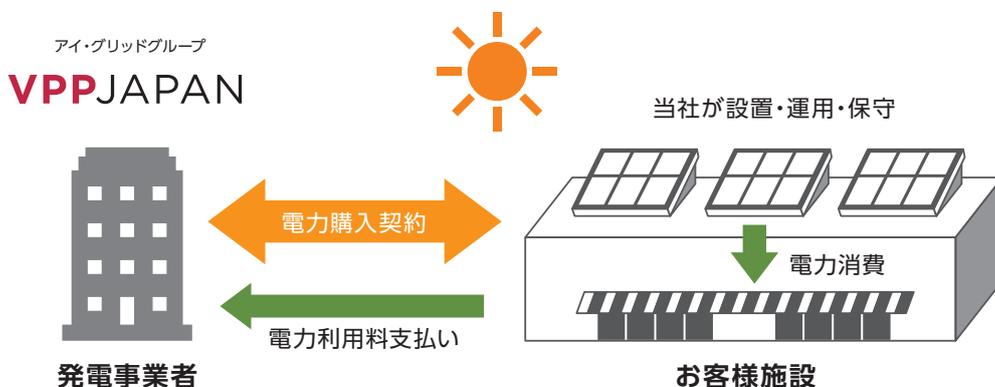


脱炭素を考えたも、  
電力コストを考えたも、  
選択肢は一つ。

# 太陽光発電オンサイト PPAサービスとは

## 先行き不透明な電力コスト対策に・初期投資ゼロの再エネ供給サービス

初期費用ゼロで、当社グループがお客様の施設屋根に太陽光発電システムを導入します。  
発電した再エネ電力は施設へ直接供給・消費し、電力利用料としてお支払いいただく仕組みです。



### サービスメリット

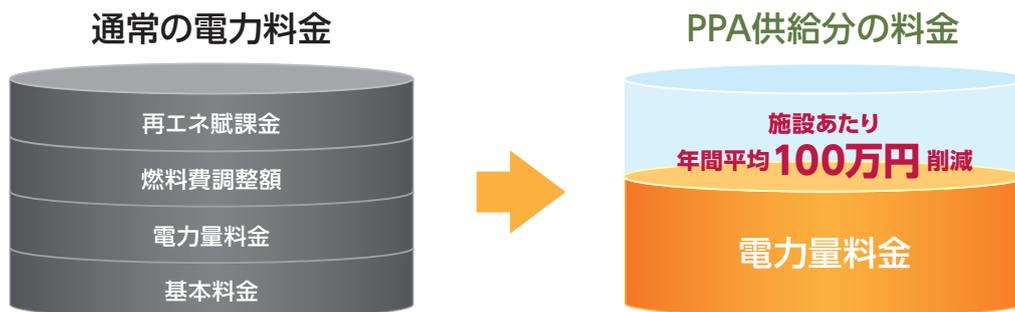
追加性のある再エネ調達

初期投資・維持管理ゼロ

電力コスト削減・安定化

停電時の補助電源

### 電力コスト削減のイメージ



※料金構成のイメージです。削減メリットは施設の状況等によって異なります。

脱炭素を考えたも、  
電力コストを考えたも、  
選択肢は一つ。

# 再エネ導入を最大化する 独自の『余剰電力循環モデル』

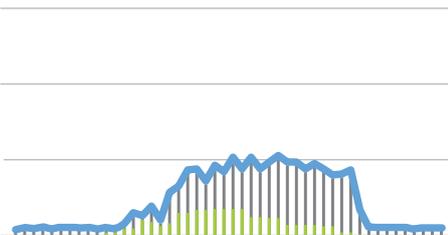
施設で消費しきれない余剰の発電分は、当社グループが需給調整を行うことで  
屋根全面への設置が可能となり、太陽光導入量が最大化できます。

## 自家消費のみ検討時

設置容量 70kW

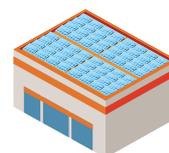


施設使用電力のごく一部  
20%しか再エネ調達ができない



## 余剰電力循環モデル利用時

設置容量 400kW



昼間は施設使用電力の  
90%を再エネで調達！

再エネ比率  
最大化



地域の他拠点へ“めぐらせる”

余剰電力予測



GRID  
SOLUTIONS

需要調整



他電力利用者

## 【顧客事例紹介】

### バローホールディングス様 余剰循環モデルによる施設屋根の最大活用



スーパーマーケットに関しては冷蔵・冷凍ケースがあり、消費電力量が多いため、太陽光で発電した電力を全部使い切ることができます。一方で、ホームセンターのような消費電力量が多くないお店に関しては屋根の上に太陽光を載せるのを躊躇していました。発電した分は余らせてはいけなないので、FITで全て売るか、自社で全て使わなくてはなりませんから。

FITについては売電価格が低下しており、投資回収が難しかったです。自家消費をしようと思うと、発電量が消費量を超えないようにするためにせっかくの屋根スペースを活用しきれず、小規模にしか設置できません。

そのうえ、自家消費分を超えてしまうと逆流が発生してしまい、電力の安定供給に支障をきたす恐れがあります。一度自己投資で行った際も発電しすぎてパソコンが停止してしまっただけでもありました。

そこにアイ・グリッドさんの余剰循環モデルのオンサイトPPAを導入すると、発電容量と消費電力のバランスを気にせずに発電できます。自家消費しきれず、余る時間帯に関しては一般のお客様のご使用場所へ太陽光で発電した余剰電力を流してくれるので、バローとしても魅力的でした。発電量と消費電力のバランスを考えなくてよくなったことによって、屋根をいっぱいに使って発電することができるようになったので、太陽光の自家消費率が上がり、例えば瑞浪中央店では約7割の消費電力が太陽光で賄えています。